

ふるさとを愛する心の育成

～将来、ふるさと五條につながりをもつ生き方を～

五條市教育委員会

1. はじめに

五條市では、「五條市ビジョン」や「五條市教育大綱」に基づき、令和5年度から5年間を対象とした第4期五條市教育振興基本計画（五條市「夢・志」教育プラン）を策定し、教育活動を推進している。中学校区ごとに一つの学園として、施設分離型の小中一貫教育を推進するとともに、市内認定こども園・小学校・中学校・市立西吉野農業高等学校が連携し、地域全体で子どもたちの成長を支える教育活動を展開している。また、昨年度より市内にある県立五條高等学校と県教育委員会、市、市教育委員会が地域の連携の推進に関する協定を締結したことで、更にその厚みを増している。

世界遺産学習においては、本市大塔町に世界遺産大峯奥駈道の一部が通っていることも含め、市内の歴史、文化、環境、産業、観光など広い視野に立って、地域を愛する心を育てる「ふるさと学習」を展開している。

2. 教育目標

第4期五條市教育振興基本計画では、五條市の教育が目指す姿として、「社会に求める姿」「保育・教育に求める姿」「学校・家庭・地域の融合に求める姿」の3つを掲げている。

こども園や学校では、一人一人がふるさとを感じ、ふるさとを語り、将来的に五條につながりをもつ生き方ができる子どもたちの育成を目指している。また、社会全体を通して、住民のシビックプライド（誇りや愛着）を育むことや、この町で住んで良かったと言える活気あるまちづくりの推進を目指している。

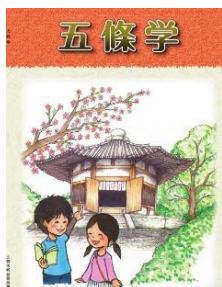
3. 教育委員会・学校での取組

○五條かるた

市教育委員会では、平成29年に市制60周年を記念して作成した「五條かるた」を、毎年小学1年生に配布している。また、このかるたを使って「五條市小学生ふるさとかるた大会」を開催し、第5回となる今年度は34名の小学生が参加した。かるたを通して、五條の良さを学び、ふるさとを愛する心を育むとともに、市内の他の小学校の児童との交流を深めることができた。



かるた大会の様子



○副読本「五條学」

市教育委員会ではふるさと学習のための副読本「五條学」を発行している。歴史、行事、文化財、自然、偉人など分野は多岐にわたり、国語科、社会科、理科、家庭科、総合的な学習の時間など様々な場面で活用することができる教材となっている。また、令和5年度より、一人一台タブレット端末を活用するために、デジタルブック版「五條学」の利活用を進めており、今年度は五條市のホームペー

ジにも掲載したことで、さらに多くの方に情報を周知することができた。

○五條東部学園コミュニティフェスティバル～コミュフェス！

本市のゆめこども園、五條東小学校、五條東中学校からなる五條東部学園は、『五條東部学園コミュニティフェスティバル～コミュフェス！』を実施した。

この事業は、地域資源を活用した複数のブースを、学校・地域・家庭が三位一体となって運営を行った。小5・小6・中1の児童生徒が、企画・運営から携わることで、非認知能力の1つである「基礎的・汎用的能力」を育み、よいキャリア形成につなげることを目指した。

当日は、学校関係者、地域の方、民生委員、保護者など総数 517 名が来場し、学校・地域・家庭が一体となって取り組む様子が見られた。また、児童生徒に郷土のよさを再認識させ、多様なつながりの中で、自分や友人のよさに気づき、自分の生活や周りの環境に関心をもたせることや自身を見つめ直し、自分のキャリアを見据える機会となった。



木工教室



金管クラブによる演奏



パズル遊び

4. おわりに

五條市がこれから目指すべき教育は、持続可能な社会の実現に向け、ESD を基盤とし、世界遺産学習とふるさと学習を融合させた、地域に根ざした教育である。

これらの学習を統合することで、子どもたちは地域社会と地球規模の課題を繋げて考え、主体的に行動する力を身につけることができると考える。例えば、大峯奥駈道の自然環境を守るための活動を通して、地球温暖化防止や生物の多様性保全の重要性を学ぶことや地域の伝統産業を学ぶことで、持続可能な生産と消費のあり方を考えることができると思われる。

五條市が目指すべき教育は、子どもたちが地域社会と地球社会の持続可能な発展に貢献できる、創造的で主体的な人材を育成することである。これからも、ESD、世界遺産学習、ふるさと学習を融合させた教育を通して、子どもたちが未来を切り拓く力を身につけることを目指し、取組を推進していきたい。